

古代群馬の中心

上野国府跡



▲上野国府で開かれている市の様子(想像図)

上野国府を解明する

国府とは、奈良・平安時代の律令制下における地方統制の中心として設置された役所のことです。上野国の国府は、古くから元総社町の総社神社付近一帯に存在すると推定されてきました。これまでの調査で、総社神社の東を流れる牛池川から祭祀に用いられる人形や「国厨」「曹司」と書かれた墨書土器がたくさん見つかったのほか、総社神社の北西にある宮鍋神社の周辺からは、古代の役所の関連施設とみられる建物群や区画溝などが見つっています。また、関越自動車道の調査では、鳥羽遺跡から古代の神社跡が発見されています。総社神社を中心とした元総社地区一帯で国府に関係の深い遺物や遺構が見つかってきたことにより、この地が国府の範囲であることがおぼろげながらわかってきました。元総社地区には、かつて「国府のマチ」が広がっていたのです。

現在、前橋市教育委員会では土地区画整理事業をおこなっている元総社蒼海地区を中心に、古代史上重要な上野国府を解明する目的で発掘調査を進めております。どうぞ、引き続きご理解ご協力をいただきますようお願い申し上げます。



上野国印(奈良時代)
天平勝宝4年/752年



上野国印(平安時代)
延長6年/928年
(群馬県立歴史博物館蔵)

古代群馬の中心地 総社・元総社

古代の群馬は「上野国」とよばれ、全国に60以上ある国のなかでも最上位の「大国」、さらには「親王任国」として、中央政権を支える重要な役割を果たしていました。なかでも前橋市総社・元総社地区には、古墳時代から平安時代の重要な遺跡が集中しています。総社古墳群では、古墳時代中頃に築造された遠見山古墳に始まり、その後200年あまりにわたって県内でも有数の規模をもつ古墳が継続して築造されました。

東日本でも最古級の本格的寺院である山王廃寺からは、塔心礎や全国で数ヶ所からしか発見されていない石製鶴尾など、きわめて精密に加工された石造

物が多数出土しています。この高度な石材加工技術は、総社古墳群の宝塔山古墳や蛇穴山古墳の石室にみられる加工技術と共通し、総社古墳群や中央政権との関連がうかがえます。

741年、聖武天皇の命によって国分寺（国分僧寺・国分尼寺）が全国に造営されました。上野国では、前橋市元総社町から高崎市東国分町にまたがった場所に建立されたことが発掘調査によってわかっています。

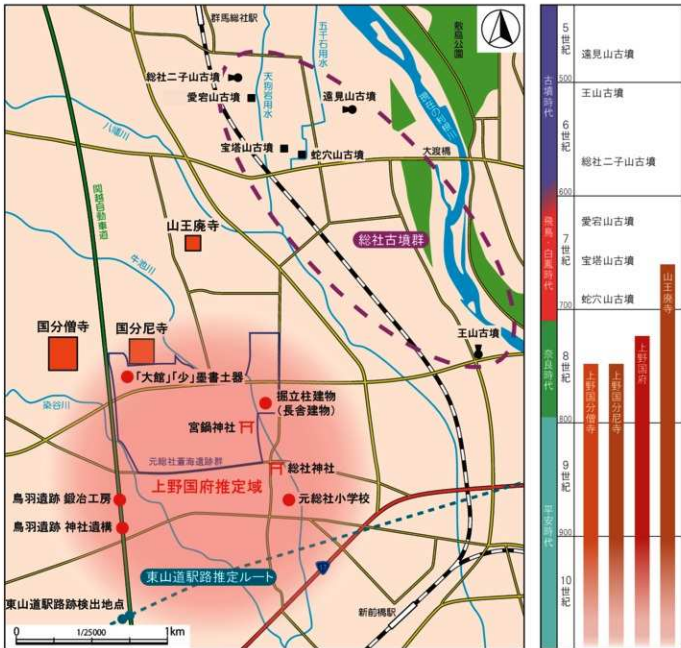
奈良・平安時代には、都と地方を結ぶ大規模な道が整備されました。上野国にはそのうちのひとつである東山道所からしか発見されていない石製鶴尾駅路が通っており、元総社町の南を通過していたと考えられています。

上野国府はどこにあったか

国府とは、律令国家において各国に設置された役所のことです。上野国の国府（上野国府）の正確な場所はまだまだはっきりしていませんが、元総社町付近にあったと考えられています。

10世紀頃に成立した『和名類聚抄』には、上野国府が「群馬郡」に存在したことが記されています。元総社町を含む一帯は、古代には「群馬郡」の範囲に含まれていました。

昭和30年代に元総社小学校校庭でおこなわれた発掘調査以降、元総社町一帯から国府の存在を示す遺構・遺物が多く出土しており、国府発見への期待が高まっています。



国府の仕事と生活

国府では、中央から派遣された「国司」とよばれる役人と、その下で徴税などの事務に従事する下級役人、兵士、各種工場で手工業生産に携わる工人など、多くの人々が働いていました。上野国府推定域から出土した遺物などから、彼らの仕事や生活をうかがい知ることができます。



◀「大館」「少」と書かれた墨書土器

国分尼寺の南西約50mの地点(元総社蒼海遺跡群(26))から出土しました。「大館」は国司の館を意味すると考えられ、東京都府中市の武蔵国府関連遺跡からも出土が確認されています。「少」は国府の役人の階級名である「少掾」や「少目」を示している可能性があります。

▶硯・筆・水滴・墨などの文房具(復元)

当時は紙が貴重だったため、役人は木簡とよばれる木の札に墨で文字を書き、事務をおこなっていました。墨を磨る際に使う硯は円形のもの(円面硯)が主流で、上野国府推定域からも多数出土しています。

書き間違えたときは木簡を削って修正するため、刀子(小刀)が役人の必需品でした。そのため彼らは「刀筆の吏」とよばれていました。



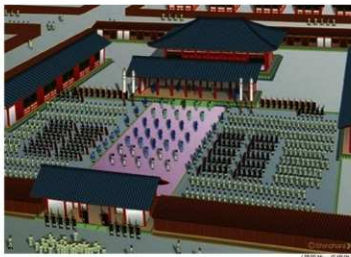
▶鍛冶工房跡(鳥羽遺跡1区)

国府では、役人が使う文房具などの道具類、都へ税として納める布類、兵士たちが使う武器類など、さまざまなものが各工場で生産されていました。

鳥羽遺跡からは、「進房式鍛冶工房」とよばれる製鉄炉をもつ長大な竪穴建物が6棟発見されています。この「進房式鍛冶工房」は茨城県石岡市の常陸国府跡からも確認されており、刀子や武器などの生産がおこなわれていたと考えられます。このほか、宮鍋神社周辺(元総社蒼海遺跡群(64))などからも製鉄炉が検出されています。



(群馬県提供 一部改変)



(群馬県提供)

▲元日朝拝の様子

国府とよばれる役所の中心施設では、国司による政治や儀式がおこなわれました。このイラストは、毎年元日に国府でおこなわれていた「元日朝拝」の様子を想像して描かれたものです。元日朝拝は律令に定められた重要な儀礼で、天皇への拝礼、国司長官への年賀のあいさつ、その後の饗宴という三段構成となっていました。イラストでは、国司の長官が郡司や下級役人から年賀のあいさつを受けている場面が描かれています。

国庁・国衙・国府とは？

- 国庁：中央から派遣された国司が政治や儀式、外交などをおこなう中心的な施設。現代でいう群馬県庁の知事部局
- 国衙：国庁とその周辺に設けられた国の行政事務をおこなっていた役所群。現代でいう群馬県庁の本庁舎・県警本部・裁判所などを含めた官庁街
- 国府：国庁・国衙とその周辺に営まれた関連施設群、工房、兵士などの宿舎、学校などを含む範囲全体。現代でいう群馬県庁とその周辺地区

国衙 国庁 国府

総社神社周辺の様子

元総社町の総社神社周辺で近年おこなっている発掘調査で、国府に関連すると思われる遺構や遺物が多数発見されています。

とくに元総社小学校の校庭と宮鍋神社周辺からは、国府等の官衙（役所）関連施設の可能性がある掘立柱建物・礎石建物や、その周囲に巡らされてあった区画溝とみられる溝の一部が検出されており、この付近に官衙が存在した可能性が高くなっています。また、元総社小学校の東を流れる牛池川からは、人形などの木器や、「国厨」や「曹司」といった国府の施設名が書かれた墨書土器などが発見されており、国府との強い関連がうかがえます。

元総社小学校の西方でも掘立柱建物が発見されており、約200年にわたって同じ場所で建て替えられた跡も確認されています。



▲元総社寺田遺跡出土の墨書土器

（西岡清博提供）



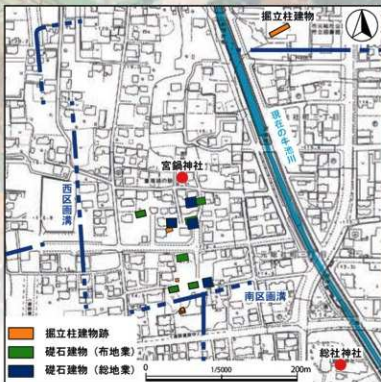
宮鍋神社周辺

総社神社とゆかりがあると伝えられる宮鍋神社の周辺からは、複数の掘立柱建物跡、礎石建物跡、区画溝が検出されています。

礎石建物を建てる際の基礎工事(掘込地業)には「布地業」や「総地業」といった方式が存在します。宮鍋神社周辺ではこの2種類の礎石建物がいずれも確認されています。

宮鍋神社の周辺からは古代の溝が検出されています。とくに南と西の溝は、上部が広く下部が狭い逆台形の断面をしており、上幅4~5m、下幅約3.5m、深さ約2mを測る大型の溝です。これらは官衝(役所)を囲む区画溝とみられます。

建物跡と区画溝はいずれも北から西へ10~15度傾いたものが多数を占め、一部の礎石建物は直列していることから、これらの建物跡、区画溝は一連の施設を構成していたと考えられます。



◀ 布地業の礎石建物跡 (元総社遺跡発掘調査報告書 146)



▶ 総地業の礎石建物跡 (元総社遺跡発掘調査報告書 133)



◀ 掘込地業(布地業)の断面にみえる版築のようす (元総社遺跡発掘調査報告書 146)



掘込地業とは？

掘込地業とは、建物が重みで沈まないようにするために、地面を深く掘り込み、その掘り込みの中に土を少しずつ入れて突き固めること(版築)で固い基礎をつくる方法です。

掘り込みの形によって分類されています。

- 布地業：柱数本分をまとめるように溝を掘る手法
- 総地業：建物全体の地面を掘りくぼめる手法

礎石建物では、この上に大きな石(礎石)を据え、礎石の上に柱を立てていました。



布地業

版築



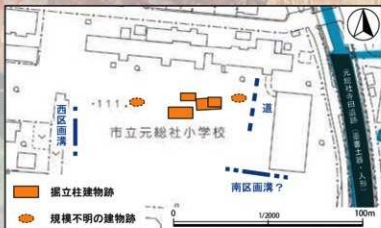
総地業

元総社小学校

元総社小学校の校庭からは、これまでに計6棟の掘立柱建物跡、区画溝、道路跡が検出されています。

西側で発見された区画溝からは多くの遺物が出土しており、なかには「大家」「本(奉?)」と書かれた墨書土器も見つかっています。

これら掘立柱建物、区画溝はともに正方位を向き、両者は同一の施設を構成していたとみられます。また、掘立柱建物は重複していることから、何度か建て替えられたものとみられます。



▲「本」と書かれた墨書土器

▶元総社小学校で発見された掘立柱建物跡(白枠部分が建物)



元総社小学校西方



▲建て替えられた掘立柱建物跡

(上野国府60トレンチ)

▶炭化物を多く含む柱痕

(上野国府60トレンチ)



元総社小学校の西方一帯からは、掘立柱建物や区画溝が点々と確認されており、円面硯などの破片も出土しています。

他の地点と比べて調査例が少なく面積も狭いことから詳しいことはまだわかっていませんが、掘立柱建物も区画溝も正方位を向き、同じ場所で何度も建て替えられた掘立柱建物が発出されているなど、国府・国庁の特徴をもった施設が長期間存続していたことがうかがえます。

牛池川

総社社の東を流れる牛池川では、河川改修に伴う発掘調査によって人形や馬形などの形代が出土しました。これは「葎」とよばれる祭祀に用いたものと考えられ、穢れを形代に移し川へ流していました。平城宮では6月・12月の晦日に役人たちが「大葎」をおこなったことが知られており、牛池川でも同様の行事がおこなわれていたとみられます。



▲元総社寺田遺跡出土の形代

(群馬県提供)



▲元総社明神遺跡出土の人形など
左の人形は全長6.6cmの大型品

その他の上野国府関連遺構・遺物



◀中国から輸入された磁器(白磁)(左)
平安京の土器に類似した土器(右)

平安時代後半の平安京では、中国から輸入した陶磁器や、白色に焼き上げた素焼きの土器が貴族の間で使われていました。

上野国府推定域でも、中国からの輸入陶磁器や平安京のものに似せてつくられた素焼きの土器が出土しています。

▶大量に廃棄された土器 (上野国府75aトレンチ)

上野国府推定域では、土坑や井戸から土器の皿や坏が大量に検出されることがあります。このような例は全国で確認されており、饗宴の際に使用した食器を一括して廃棄した跡と考えられています。出土した土器から平安時代の終わり頃のものと考えられ、大量の土器を用いた饗宴を催せる立場の人物が当時この地に存在していたことを物語っています。



▲鳥羽遺跡で検出された神社遺構(上段)と想像復元模型(下段)

国内の諸神を祀ることは、国司にとって重要な役割のひとつでした。

鳥羽遺跡からは幅の異なる二重の溝と一重の櫓で囲まれたほぼ正方形の掘立柱建物跡が検出されています。この建物は神社跡であると考えられており、武蔵国府でも同様の遺構が確認されています。



▲東山道駅路とみられる道路跡 (上野国府45aトレンチ)

東山道駅路は都と地方を結ぶ道として整備された官道のひとつです。信濃国(現在の長野県)から「碓氷坂」を越えて上野国に入り、平野部を横断して下野国(現在の栃木県)へ至る経路をとっていました。

この東山道駅路の跡とみられる大規模な道路跡が県内各地で確認されており、複数のルートの存在が想定されています。そのうちのひとつが「国府ルート」とよばれるもので、高崎市浜川町や菅谷町、前橋市鳥羽町などから、国府推定域へ向かう直線的な道路跡が検出されています。

写真は鳥羽町の群馬高専付近で検出された道路跡です。左右と中央に溝があり、溝の間の平坦な面が道路面です。左右の溝が道路の側溝とみられ、溝の中心同士の間隔は約6mです。中央の溝は中世以降のものと考えられます。

この道路跡の東端では、関越自動車道建設に伴う発掘調査によって同様の道路跡が検出されていますが、それより東の様子はわかりません。

上野国府周辺の遺跡

総社古墳群

上野国府推定域の北東2kmほどのところに分布する総社古墳群は、その規模や築造技術、出土品などから中央政権との密接な関係が想定されます。5世紀後半の遠見山古墳（前方後円墳）から7世紀後半の蛇穴山古墳（方墳）まで、大型古墳が連続して築かれました。



◀総社古墳群の羽板式冢形石棺 (左:愛宕山古墳 右:宝塔山古墳)

羽板式冢形石棺は畿内でも有力者の古墳に採用される石棺で、群馬県内では総社古墳群の2例を含めわずか6例しか知られていない貴重なものです。とくに宝塔山古墳の石棺には脚部に格狭間とよばれる装飾が施され、高い石材加工技術と仏教の影響が垣間見えます。

山王廃寺

上野国府推定域の北約1.3kmほどの場所に位置する山王廃寺は、7世紀後半に創建された東日本最古級の寺院です。出土遺物のなかには三彩や塑像、金銅製飾金具などが含まれ、畿内の有力寺院にも匹敵するものでした。石製鴟尾や塔心柱根巻石、塔心礎などの石製品には高い加工技術が用いられ、その造営には同時期に築かれた宝塔山古墳やその後の蛇穴山古墳の被葬者が関与していたと考えられています。



◀石製鴟尾

鴟尾とは、金堂などの屋根に据えられたシャチホコのような飾りで、火災のときには水を吐くとされる想像上の生物です。多くは瓦製ですが、山王廃寺からは瓦製だけでなく石製の鴟尾2体が発見されています。石製鴟尾は全国でも山王廃寺や鳥取県大寺廃寺などにしかない珍しいものです。

上野国分僧寺・国分尼寺

上野国府推定域の北西には、聖武天皇の命によって建立された国分僧寺・国分尼寺が存在しました。正式には、国分僧寺は「金光明四天王護国寺」、国分尼寺は「法華滅罪寺」といい、2つをあわせて「国分寺」あるいは「国分二寺」と呼んでいます。

高崎市東国分町の染谷川左岸に上野国分僧寺があり、その300mほど東に上野国分尼寺がありました。



▲上野国分僧寺推定復元図

(群馬県提供)

5世紀後半	遠見山古墳が造られる
6世紀前半	王山古墳が造られる
6世紀中頃	百済から仏教が伝わる
6世紀後半	総社二子山古墳が造られる
7世紀前半	愛宕山古墳が造られる
大化元年(645年)	乙巳の変
7世紀中頃	宝塔山古墳が造られる 山王廃寺が建立される
7世紀後半	蛇穴山古墳が造られる
持統8年(694年)	藤原京遷都
大宝元年(701年)	大宝律令が制定され、国・郡・里制が施行される
和銅元年(708年)	田口益人が上野守に任命される (資料で確認できる最初の上野国司)
和銅3年(710年)	平城京遷都
和銅6年(713年)	上毛野国を上野国と改める このころ、国府が成立
天平13年(741年)	国分寺建立の詔が発せられる このころ、上野国分僧寺・国分尼寺が建立される
延暦3年(784年)	長岡京遷都
延暦13年(794年)	平安京遷都
弘仁2年(811年)	上野国大國となる
弘仁9年(818年)	弘仁の大地震
天長3年(826年)	親王任国制の開始 初代上野太守は葛井親王
延喜15年(915年)	上野国司藤原原載、上毛野基宗らに殺害される
天慶2年(939年)	平将門の乱 上野国府を占領する
長元3年(1030年)	このころ、「上野国交代実録帳」が作成される
天仁元年(1108年)	浅間山噴火
治承4年(1180年)	足利俊綱、上野国府を焼き払う

前橋市教育委員会文化財保護課

令和6年3月発行 第1刷

〒371-0853 群馬県前橋市総社町三丁目11-4
 電話 027-280-6511/FAX 027-251-1700
<http://www.city.maebashi.gunma.jp/>
 E-mail: bunkazai@city.maebashi.gunma.jp